

吉田俊栄の独り言 その八

「厄年」を迎える人がいます。「厄年かあ、参ったなあ、健康診断でも受けようかな」と消極的、弱気な考えになります。あたかも「悪いこと、困ったこと」が起きるかのように。そこで、「受け止め方」を変えてみます。「厄年」は、飛躍するための「躍年」なんです、と。謙虚に、用心しながら、歩いていけばいいんだね、と明るく、積極的に受け止めましょう。

「病気」を頂いたときは、もっと優しくなりなさい。とのメッセージ。

「事故、トラブル」を頂いたときは、もっと謙虚になりなさい。とのメッセージ。

病気になったことで、以前より優しくなれたら、病気というものが厄介で怖いものではなくなります。「自分が優しい人間になれたから、ありがたいものだ」と受け入れられたら「幸せ」ということ。病気になっても「どうして？正しく生きてきたのになんで私が病気になるの？」と否定し続けたら「不幸」感じるようになる。同じ「病気」なんですけれど、自分がどう感じるか、どう受け止めるか、で「幸せ」か「不幸」に分かれてしまうのです。

12月△日（曇り） 吉田家のクリスマス合戦

お坊さんの家族が、クリスマスやってもいいですよ～

12月に入ったある日のこと。ヒロアキが「お父さん（妙に優しい声で）こんどさあ、スーパーマリオの新しいのが出るんだって、インターネットで調べてみてくれない？それでさあ、サンタさんにも聞いてみてよ。」（任天堂のTVゲームソフトのことです）幼稚園の頃は「だまし」が効いたんですけれど、知恵が付いてきました。さらには駆け引きを仕掛けてきました。

「なかなか手ごわくなってきたわい」と内心冷や汗。それでも、サンタさんの存在を信じていることが微笑ましいなあ。その日から彼は、積極的に宿題をやるようになり、返事が「うん」から「はい」になりと、クリスマスの日までその精進が続きました。人間、動機がどうあれ、目的を持つと頑張るものなんだということです。かたや妹のヒトミは、というと、いきなり「本物のピアノがいい」と大物ぶりを発揮し周囲をパニックに陥れたり、親にとってこの12月はまさに「合戦」であります。

「もしかして、サンタさんは、お父さんなんじゃない？」とヒロアキの鋭い突っ込み。

「今晚は、サンタさんが来るまで起きてよう！」と気合十分のヒトミ。

「サンタさんはね、寝ているときにしか来ないんだよ。」と攻撃をかわすお坊さんの父。

2人は、布団の中に入り、「寝ちゃだめだぞ」と声を交わしていましたが、あっけなく寝息を立てていました。「むふふ、やはり子どもだわい」と勝利をかみしめる父。

25日の朝を二人は満面の笑顔で迎えることができました。しかし、安心は一瞬のことでした。笑顔でヒロアキが「来年さあ、6月に誕生日が来るじゃない？そのときは何をプレゼントしてもらおうか考えておくね」そのとき、父は覚悟しました「戦いはまだまだつづくのだ」と。

- 是非、読んでみて頂きたい本をご紹介します。私も、「知ってよかったあ」と思いました。自分の体は、自己責任、病院に頼りすぎない、世間の情報に流されない、ということを経験させていただきました。

「血圧心配症ですよ！」 松本光正著 （本の泉社）

「ガンは治るガンは治せる」 安保徹、キ・ジュンソン、船瀬俊介著 （花伝社）

